

2022年のグローバル投資環境

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 各国の金融引き締め度合い焦点

2022年のグローバル投資環境を見る上で重要なのは、各国の金融引き締め度合いがどの程度になるかと考えます。FRB（米連邦準備制度理事会）が12月14～15日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）で、2022年に3回の利上げ見通しを示した（ドットチャート、中央値）ほか、その直後に、英国の中央銀行が予想外のタイミングで利上げに動くなど、各中央銀行が金融引き締めに向けて動き出しつつあります。

もっとも、G7（先進7カ国）の政策金利合計値は歴史的な低水準にあることに加え、過去の利上げ初期局面は株価も堅調に推移する傾向があることなどを考えると、各中央銀行による金融引き締めがすぐに株式相場を冷やす可能性は低いと想定されます（右上図）。

ポイント② FRBの量的引き締めには注意

2022年に注意したいのは、インフレの動向次第でFRBが保有資産を縮小するQT（量的引き締め）を前倒しで進める可能性があることです。その場合、短期的に世界の株式相場が調整するリスクが考えられます。実際、FRBが利上げとQTを同時に進めた2018年は米国株が乱高下の展開となった経緯（右下図）があります。

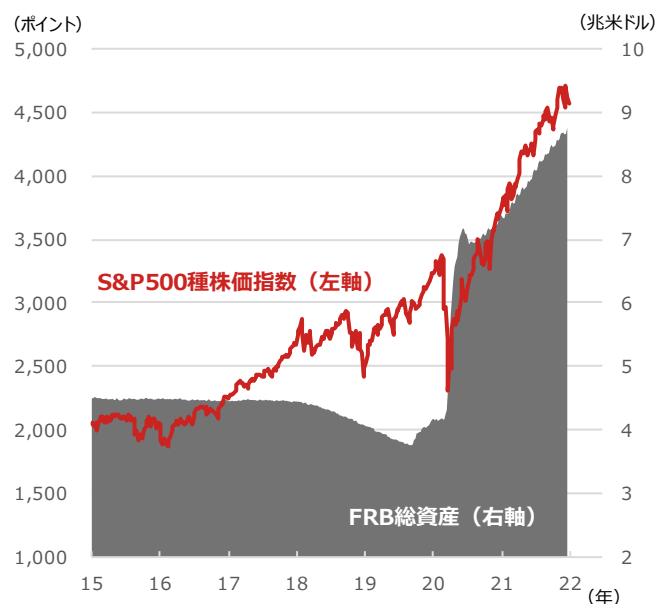
世界的な景気回復や堅調な企業業績、米実質金利のマイナス持続などグローバル投資環境は良好な状態が続くと考えられ、株高基調が継続するというのがメインシナリオとみられます。ただ、FRBが早期にQTに踏み切るなど各中央銀行の引き締め度合いが強まると、株式相場の変動率が高まる場面も想定され、各中銀の金融政策姿勢には注意を払う必要がありそうです。

先進国株とG7政策金利合計値



期間：2003年1月末～2021年12月20日、月次
 ・先進国株：MSCI World Index、米ドルベース
 ・G7政策金利合計値：米国、ユーロ圏（ドイツ、フランス、イタリア）、日本、英国、カナダの政策金利合計値
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数とFRB総資産



期間：（S&P500種株価指数）2015年1月2日～2021年12月20日、週次
 （FRB総資産）2015年1月2日～2021年12月17日、週次
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。